

16歳の2015年から5大会連続で世界陸上に出場し、22年には日本男子で初めて100mの決勝に進出。23年には最高の6位入賞。

ザニブラウン・ハキーム
選手(26)
9秒96

9月13日から、東京で陸上の世界選手権(世界陸上)が開かれます。開幕まであと3か月。今週は「人類最速」を決める陸上の花形種目、男子100mに注目します。

世界陸上まで3か月 人類最速に挑む



桐生祥秀
選手(29)
9秒98

柳田大輝
選手(21)
10秒02

*選手名の下のタイムは自己ベスト

2017年に日本勢で初めて10秒の壁を突破し、短距離界を引っ張ってきた。5月の静岡国際で優勝するなど今シーズン好調。

かつては走り幅跳びと二刀流で、中学時代は走り幅跳びで全国優勝している。走り幅跳びの経験を生かした、一步の幅「ストライド」の大きな走りが特徴。

男子100mの世界陸上の「参加標準記録」は10秒00。2024年8月以降にこのタイムをクリアした人に出場資格があります。現時点で出場資格を得ているのはザニブラウン・ハキーム選手(26)。昨年8月のパリオリンピックで自己ベストの9秒96を出しました。パリでの走りを9秒91か92くらいまでいけたのではないかと振り返り、記録の更新に期待がかかります。

勢いにのっているのは柳田大輝選手(21)。5月に、世界陸上の会場である国立競技場で行われた男子100mの世界陸上大会で、2019年世界陸上上チンピオンを破って優勝。5月に行われた別のレースでは、強い追い風が吹いていたため参考記録とされていますが9秒95もマークしています。

6月6日の国際大会で、アメリカ選手が出した今シーズン最速記録は9秒84。3か月後に向けて調子を上げていく選手たちは、世界陸上の舞台でどんな走りを見せてくれるのでしょうか。

男子100m 10秒00で出場資格

日本開催 3回目



世界陸上は2年に1度開催される大会で、日本で開かれるのは1991年の東京、2007年の大阪に次いで3回目です。

開幕まで100日となった6月5日、大会のメダルデザインが発表されました。写真は、大会ロゴの扇形から陸上のレーンをイメージしたストライプの線が伸び、東京を意味する都市コード「T・Y・O」の字が浮かぶデザインになっています。

ボルトさんの再来!?



陸上短距離界で今、「ボルトの再来」と注目されているのが、オーストラリアの17歳、ガウト・ガウト選手です。

昨年、200mで、世界記録を持つウサイン・ボルトさん(ジャマイカ)が同じ16歳の時に出した記録を上回り、「若い頃の自分みた

い」とボルトさん本人も認めるスプリンターです。

200mで参加標準記録を突破しているガウト選手。国立競技場で新たなスターが誕生するかもしれません。